人間と演劇研究所特別講座 福岡・大分ワークショップ 2017.9.17-18

―― からだとことばといのちのレッスン ――

いのちの風にうながされ　流れあう「からだ」響き合う「ことば」

・意識し言語化する以前の「からだ」全体の微細な変化に着目し、自然で豊かなコミュニケーションの可能性を探ります。
・無意識的な身体の緊張を取り払うことで、コントロールの主体を自意識から「いき」（息・呼吸・生・活）へと明け渡し、
　動き、姿勢、声、ことば、コミュニケーション等の新しい可能性を発見します。

福岡ワークショップ：
９月１７日（日）１０：００～１８：００
レスポアール久山（リハーサル室）
定員１０名、参加費１６，０００円

大分ワークショップ：
９月１８日（月）１０：００～１８：００
大分西部公民館（和室１・２）
定員１０名、参加費１６，０００円

人間と演劇研究所 Open Workshop

受付：
◎参加を希望される方は、メールまたは電話にて
お名前・電話番号・メールアドレス
福岡・大分のどちらへ参加を希望されるか
お知らせください。
◎参加費用は当日にお支払いください。

連絡先：
〒187-0035 東京都小平市小川西町 2-6-303
人間と演劇研究所代表　瀬戸嶋 充・ばん
メール karadazerohonpo@gmail.com
電話 090-9019-7547（ショートメール可）

「からだ」と「ことば」の成り立ちを、「いのち」の側から考えていかなければならないときが来ているように思います。

これまで私たちは、人間（自意識）の側から「いのち」を見、「いのち」について語ることを当然のこととしてきました。

そこには『私たち人間は、自意識も含めて「いのち」の現れである』という考え方が抜け落ちています。「いのち」は自意識に従うものと見られているのです。

おそらく、これまで常識としてきた、自意識中心のものの見方や考え方とはまったく異なる、「いのち」とのかかわり方を、これからの私たちは新たに見出して行かなくてはならないのだと思います。

竹内敏晴（からだとことばのレッスン）、野口三千三（野口体操）の二人の師匠の遺した実践の中に、私は「いのち」へのあらたな眼差しを劈く（ひらく）ための手掛かりを見ています。

講師紹介：瀬戸嶋 充・ばん
1981 年 竹内敏晴・野口三千三に師事。1988 年 人間と演劇研究所設立、『竹内からだとことばのレッスン』と『野口体操』の継承指導、宮沢賢治作品の舞台創作を続ける。現在、主に東京・大阪・京都でレッスン教室を主宰。その他、内観療法・禅・丹田呼吸法など、日本の伝統に根差した心身修養法を学ぶ。人間と演劇研究所代表・日本ソマティック心理学協会 SPN 世話人。